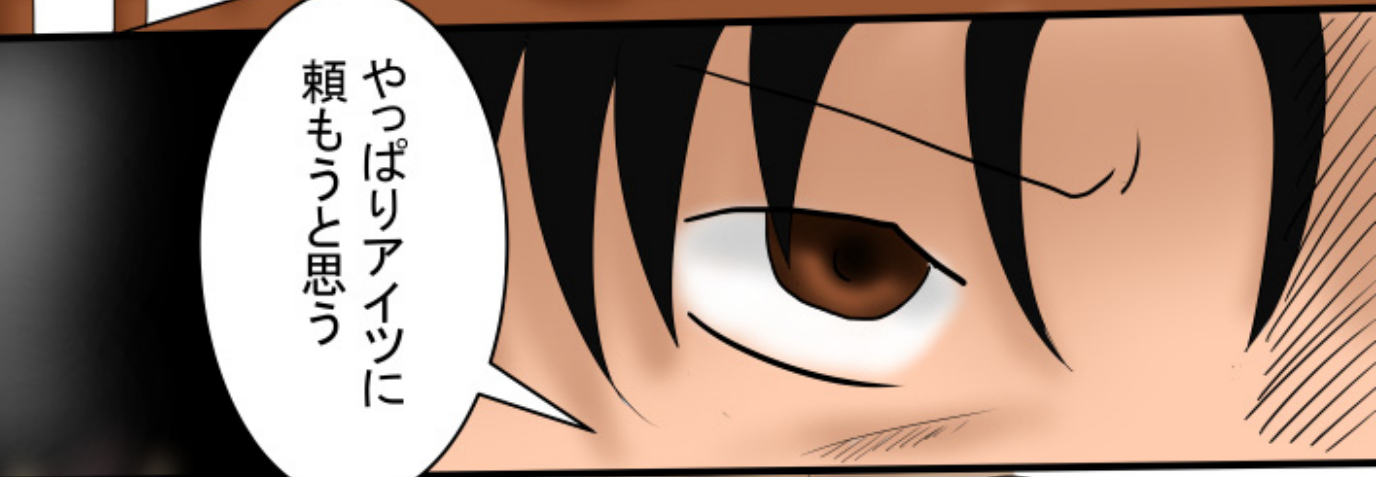
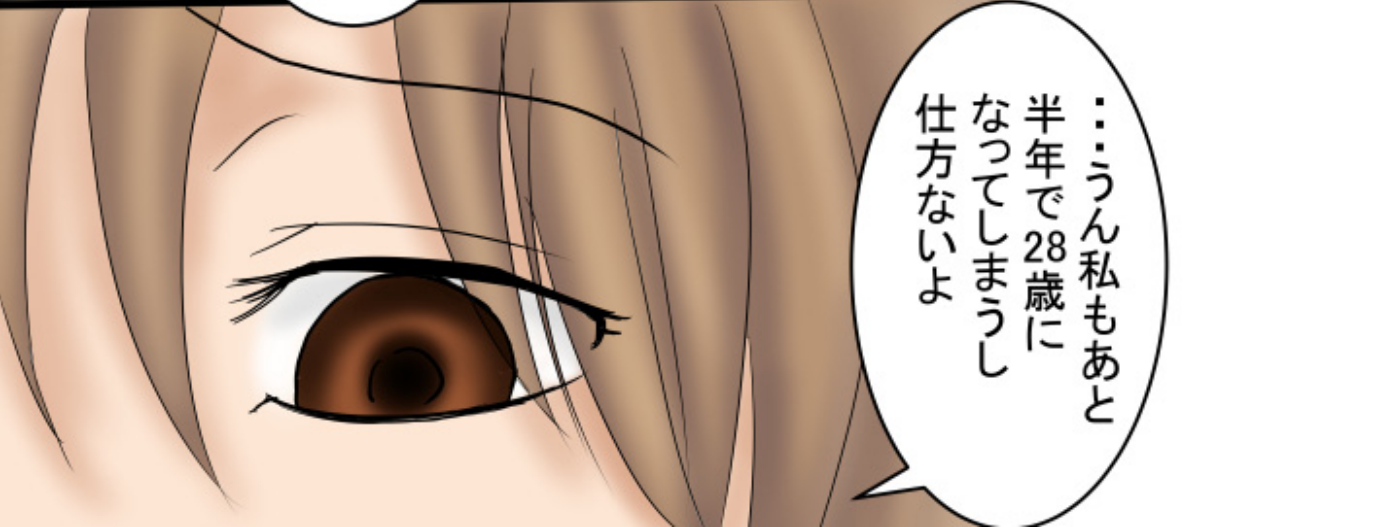




やっぱりアイツに
頼もうと思う



……うん私もあと
半年で28歳に
なってしまうし
仕方ないよ



2025年

少子高齢化に悩む

日本はコンドームなどの避妊具の
生産販売を禁止し、ついには

国による強制出産を強行する

国家維持強制出産法が制定された

2人以上の子供を産ませたい

政府は女性は28歳までに1人、

30歳までに2人の子供を

産むノルマを女性に課した。

それができない場合、女性を

連行し不特定多数の男と

性交させるといふとんでもない

法律ができてしまった。

国民の猛反対をはねのけ

国の存亡に関わることを

大義名分とし必要なら

武力行使も厭わない状況に

国民は為すすべがなかった。



1年前なかなか子供を授かることができなかった俺達夫婦は不妊治療の相談をすることに決めた。その際に俺が種なしであることが判明した。

国家維持強制出産法ができてから体外受精の需要が急増した。

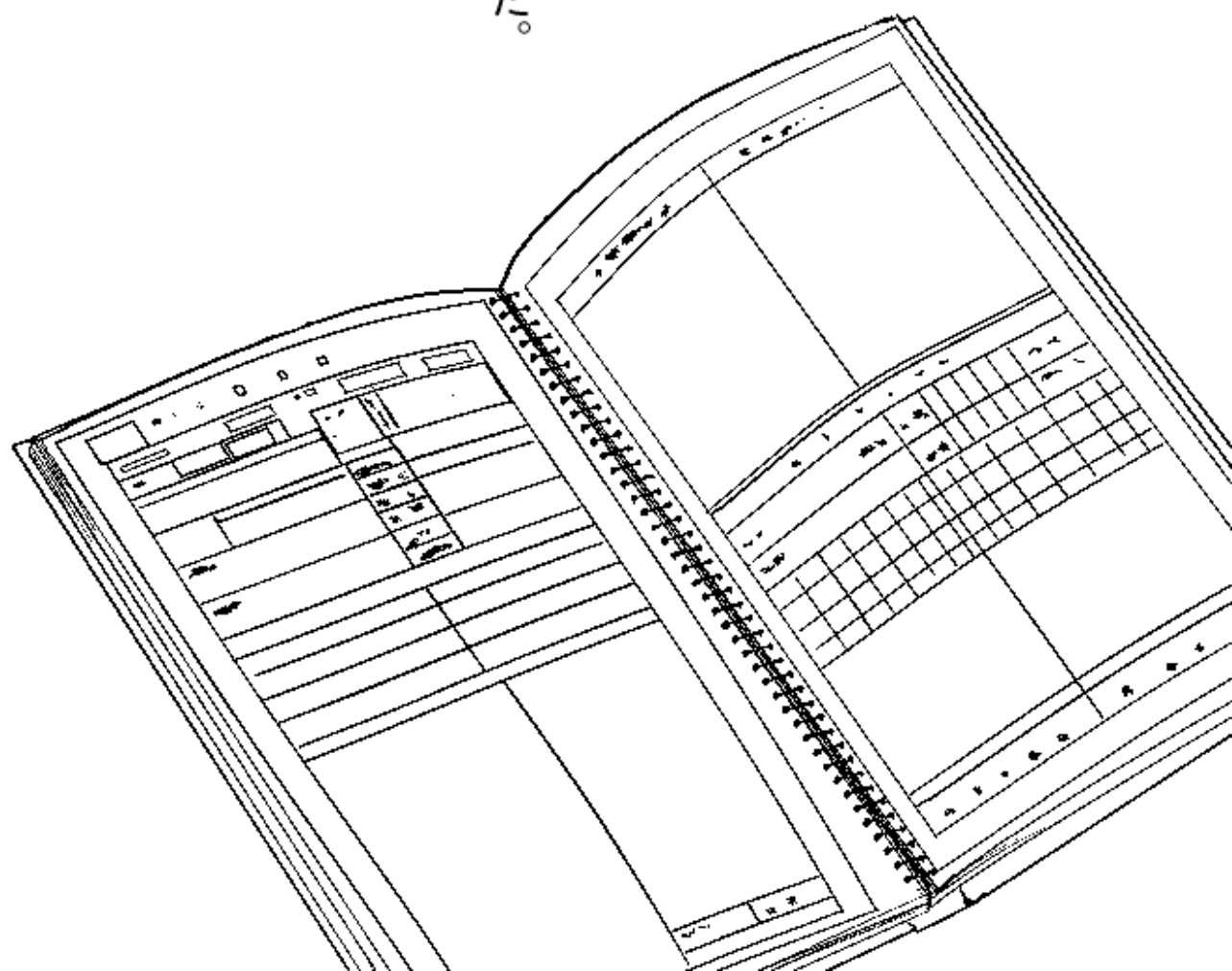
レズビアンや俺のような種無しの男が近親者に精子を提供して貰い自分の妻を守るために体外受精をする女性がたくさんいるのだ。男兄弟がいなかった俺は父親に精子を提供して貰った。なかなか予約が取れないなかで妻は1年間体外受精を試みたが受精できなかった。

タイムリミットは残り半年

このままでは妻が知らない

男達に妊娠するまで犯されてしまう。

だったら、せめて親友の子供を育てたい



黒い噂

国家維持強制出産法が

私的に悪用されているらしい

強制出産管理局の人間や

社会的地位の高い男が

法律の年齢まで子供を

産めなかった女性に

種付けをしているらしい。

どういった選考基準で

種付けする男を決めているかは

一般には公開されていない

権力者の中には強制出産管理局や

体外受精を行っている一部の

病院の医師と裏で繋がりがある者がいる。

医師や管理局の人間に大金を握らせ

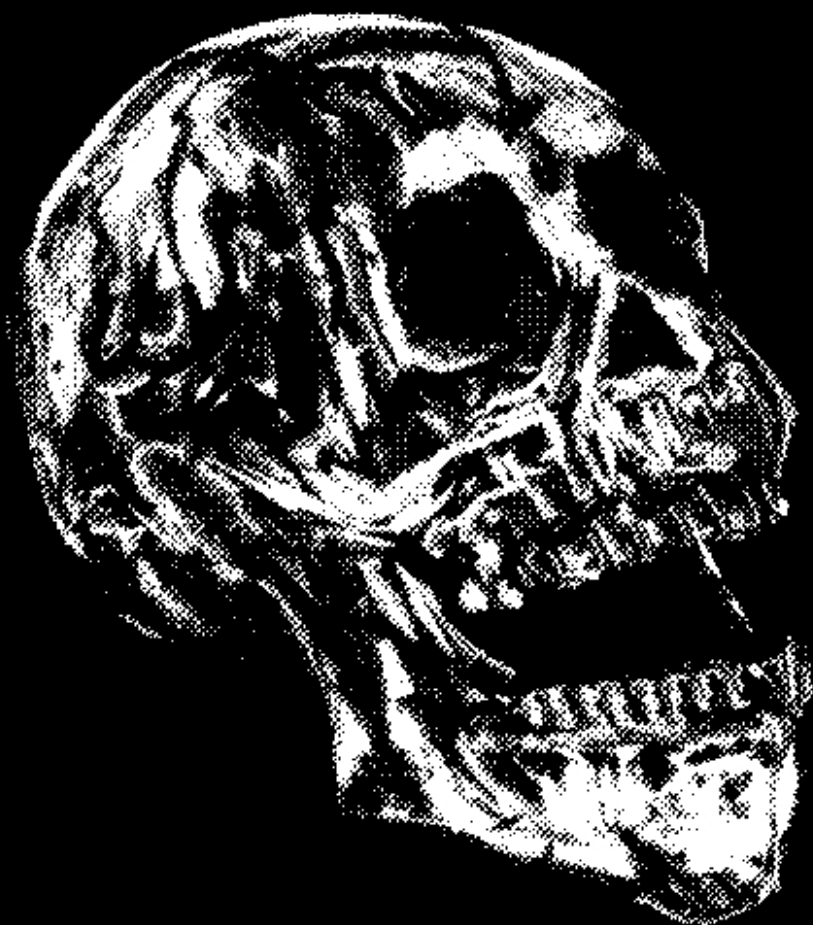
あるいは権力で脅し

美しい女は体外受精に成功しても

隠蔽され権力者が優先的に

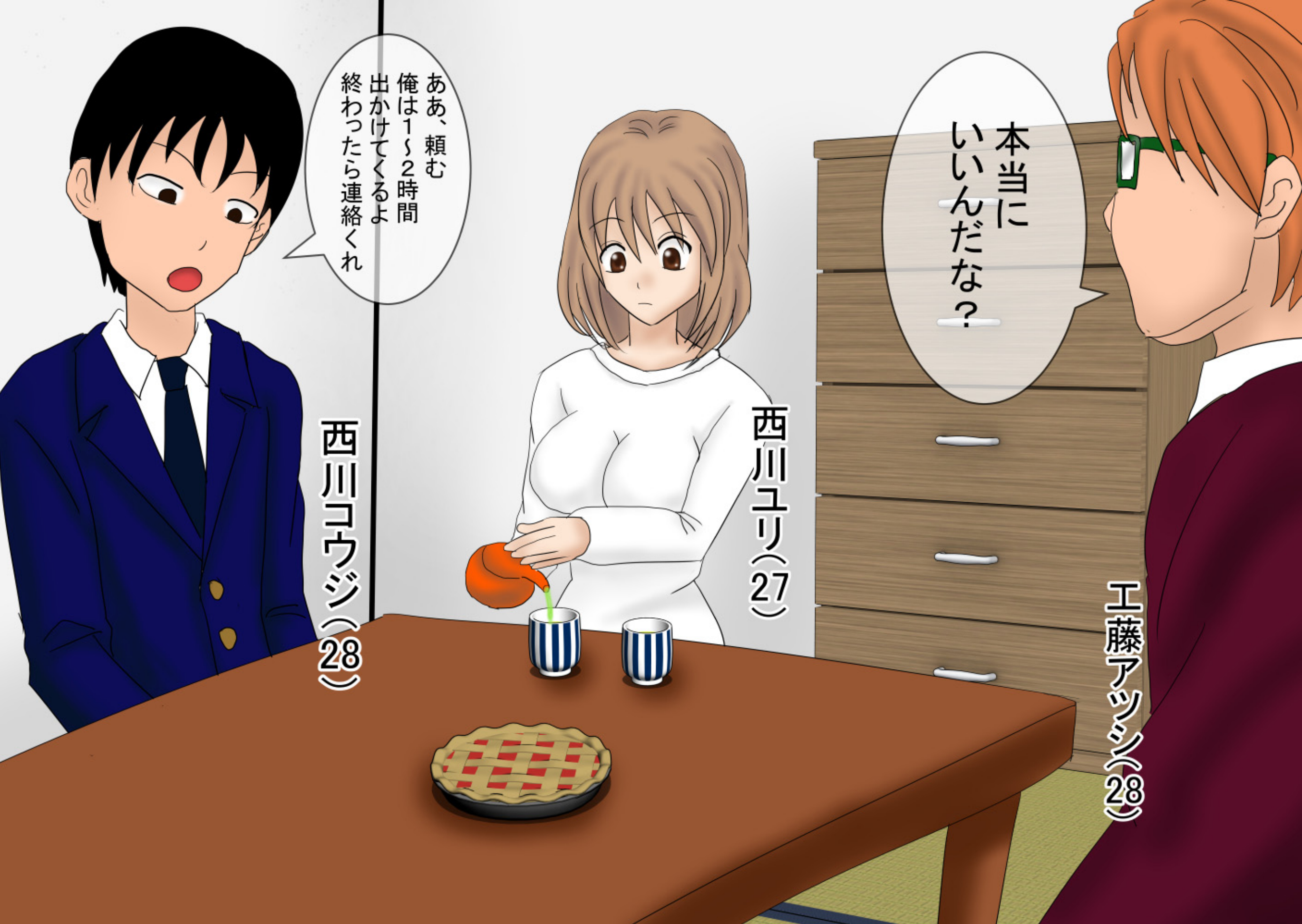
セックスできるように

便宜をはかっているらしい



数日後の夜
俺は親友の
アツシを
家に呼んだ
妻を抱いて
貰うために……





ああ、頼む
俺は1〜2時間
出かけてくるよ
終わったら連絡くれ

西川コウジ(28)

西川ユリ(27)

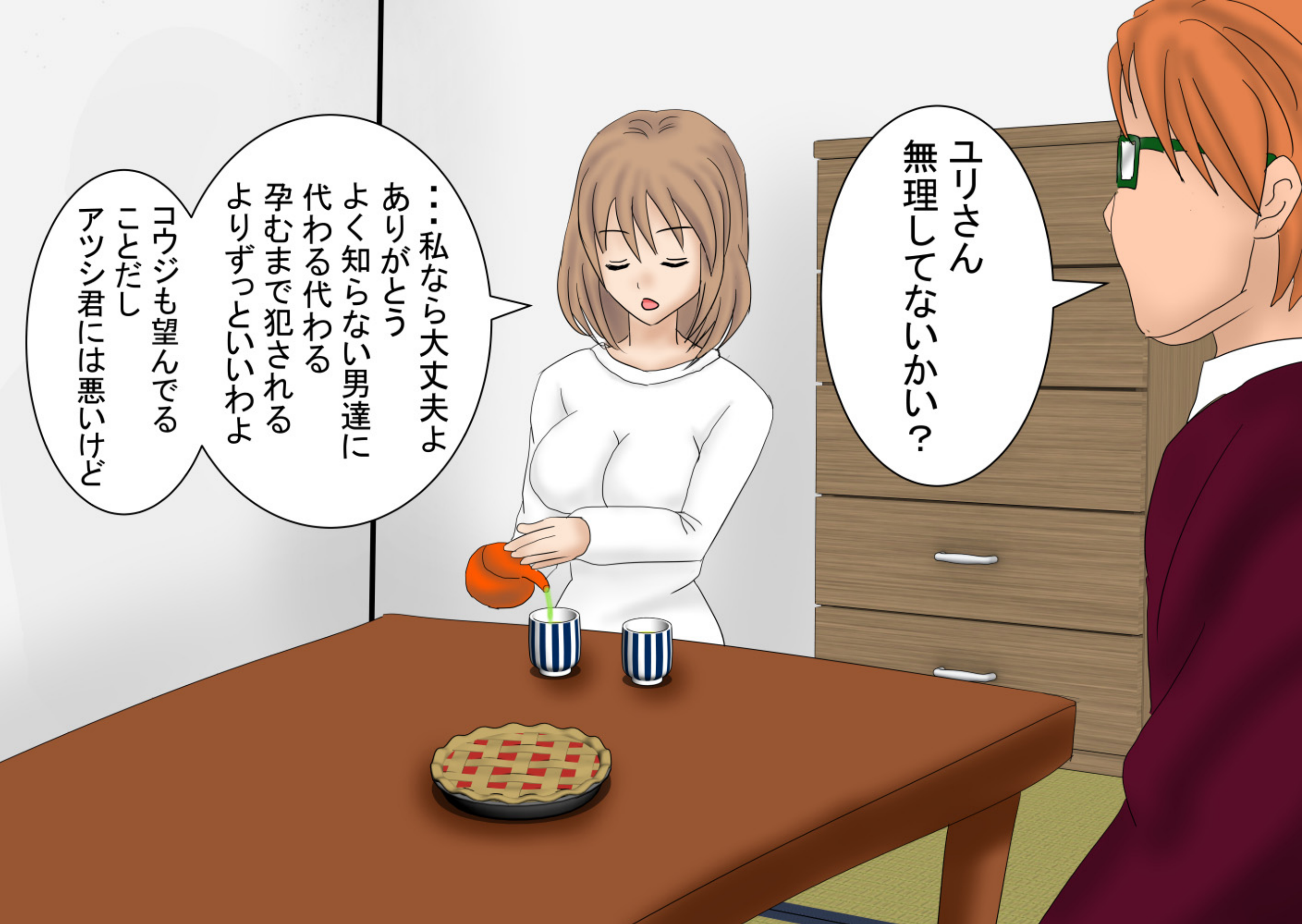
本当に
いいんだな？

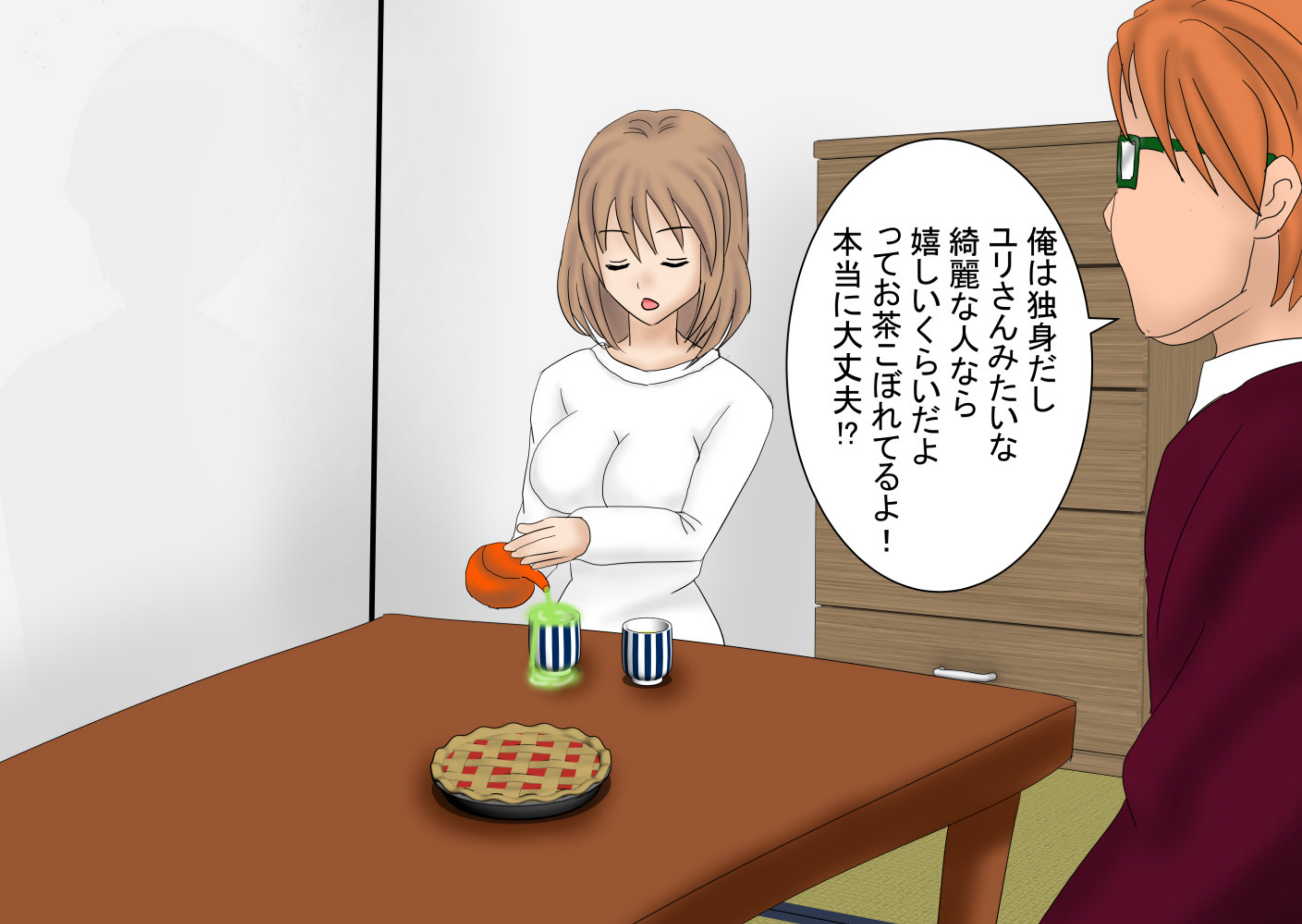
工藤アツシ(28)

ユリさん
無理してないかい？

…私なら大丈夫よ
ありがとう
よく知らない男達に
代わる代わる
孕むまで犯される
よりずっといいわよ

コウジも望んでる
ことだし
アツシ君には悪いけど





俺は独身だし
ユリさんみたいな
綺麗な人なら
嬉しいくらいだよ
ってお茶こぼれてるよ！
本当に大丈夫!?

衣擦れの音が聴こえる

少し前にコウジが外に出て行き

僕は奥さんのユリと

二人きりになった

僕はアイマスクで目隠しをした。

二人からセックスをする

了承を得たが

できれば二人とも

ユリの裸は見られたく

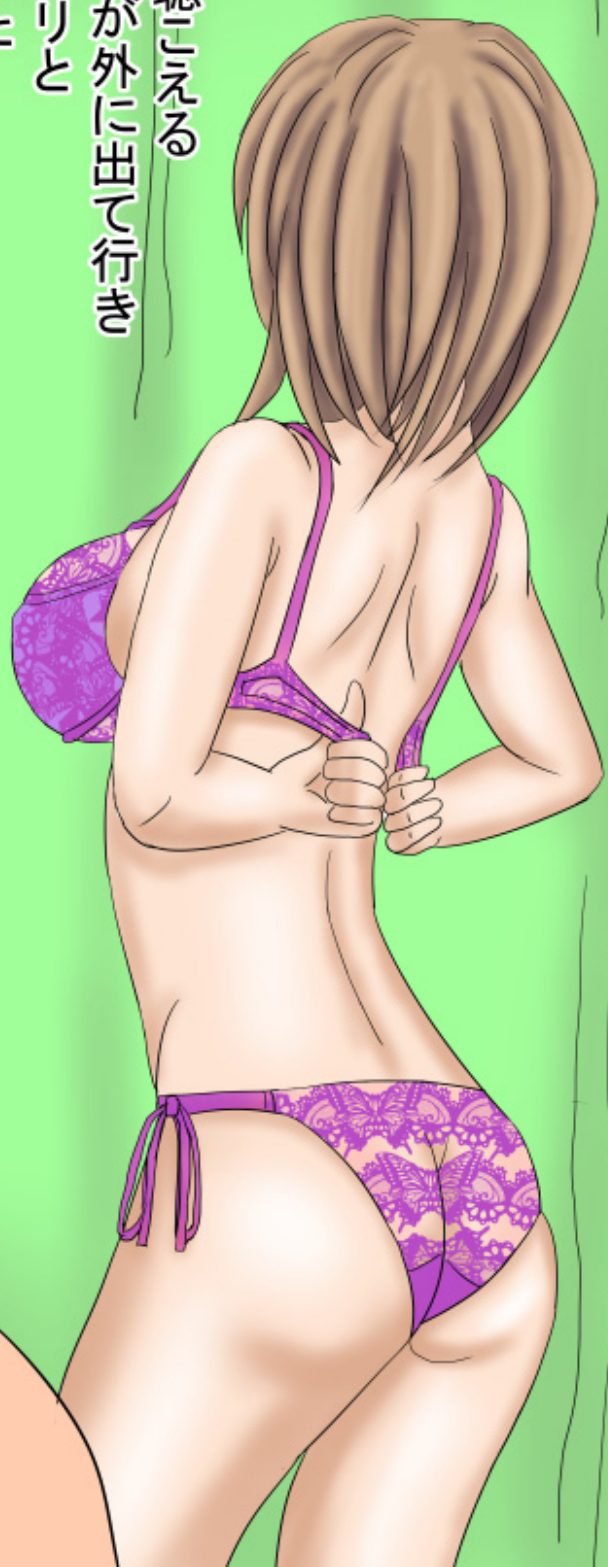
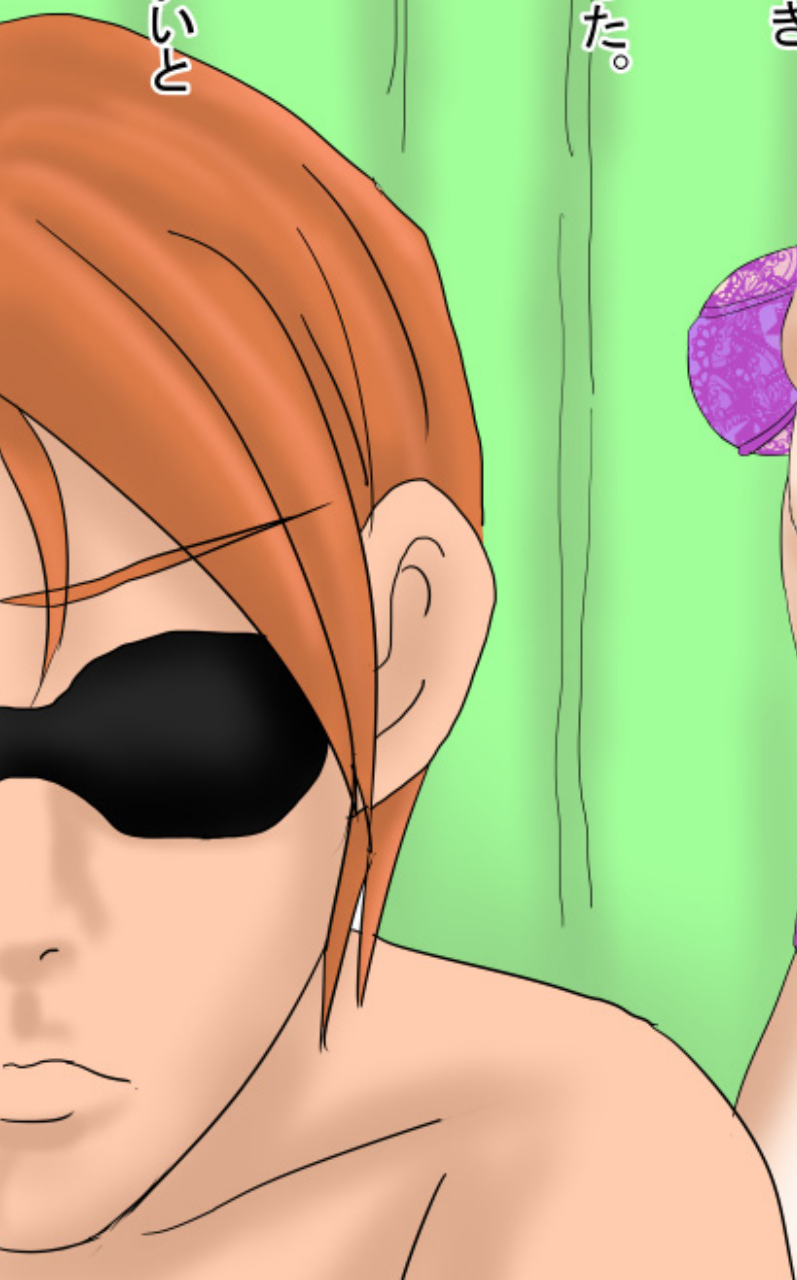
ないだろうと思い。

自分から、そうしたのだ。

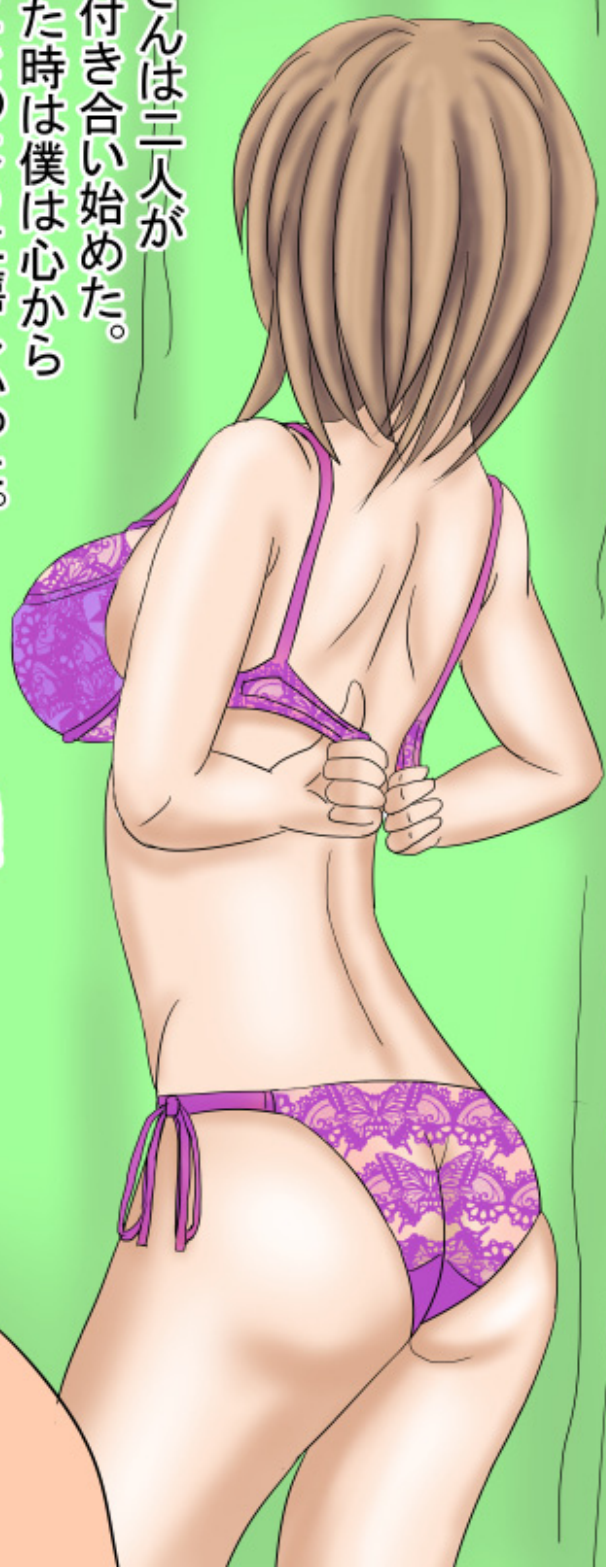
ユリさんは気を遣わなくていいと

言ってくれたがコウジに

悪い気がしたのだ。



コウジとユリさんは二人が
大学生の頃に付き合い始めた。
二人が結婚した時は僕は心から
祝福し自分のことのように嬉しかった。
まさかこんなことになるとは
夢にも思わなかった。
アイマスクで裸は見えていないのに
音だけで服を脱いでるシーンを
想像してしまい。
触れてもいないのに
股間はどうギンギンに
勃起していた。
なんだかんだで期待に
胸も股間も膨らんでいた。



ゴ
ク
リ



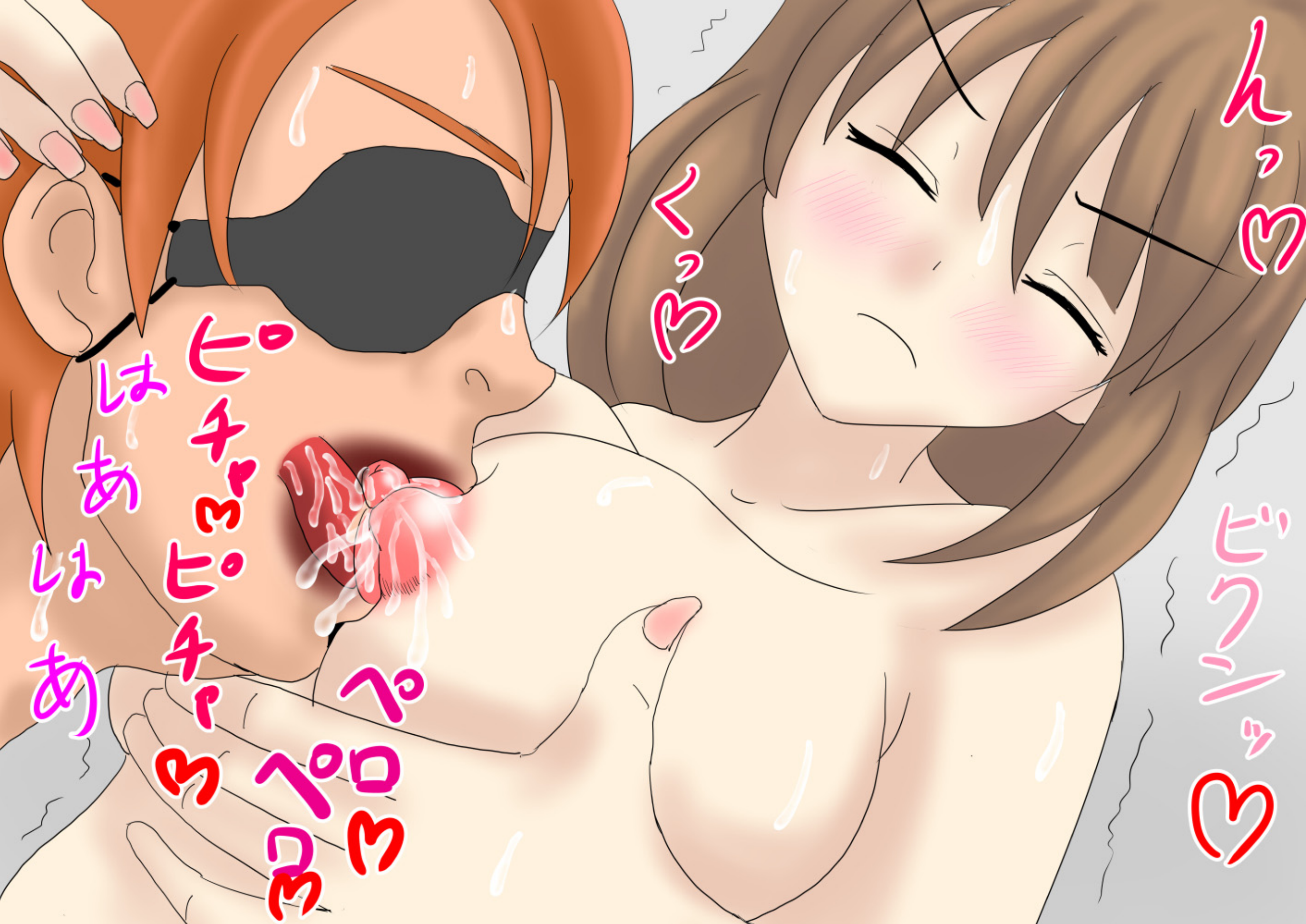
あーっ
やっ
ッ
メッ

彼女の手に導かれ
乳頭のでっぺんに
吸い付くユリは
ほんの少し声を上げた
もっと彼女の声が聴きたくて
僕は夢中で乳首に
むしゃぶりついた
彼女の静止に構わず乱暴に
乳首を吸い続け
激しく責めたてた

あんっ！痛いよ
もっと優しく
吸って

ちゅ
ず
ル
ル
ル
♡


ちゅ
ちゅ
ハ
ハ
♡
♡



変なこと
訊かないでよ

ユリさん
もう湿ってるよ
おっぱい吸われるの
気持ち良かった？

くちゅ♡



本当は乱暴に
されたほうが
感じるんじゃない？
ユリさんはMかな？

…アツシ君
怒るわよ？

ゴメンゴメン
冗談だよ

くちゅ♡

くちゅ♡

いっ

あゝ♡

はあ♡

はあ♡
びくん

見えずとも触れた
感触から分かる
彼女の陰毛は
あまり濃くないようだ

毛が細く柔らかい
刺ったような
ジヨリジヨリした
手触りもない
ベッドのシーツには
小さな水たまりが
できていた

びくん♡

びくん♡



普段、夫婦で
使っているベッドで
軽く大の字に
手足を広げて寝る
視界が真っ暗のなか
親友の妻からの挿入を待つ

「…入れるね」

そう言うところには
僕の上にまたがり
男根をつかみ

何度か自分の陰部に
あてがい、しつとりと
濡れた秘部から出た
愛液を僕の肉棒に
まわりつかせた

いよいよ入れられる！

興奮と期待で

心臓はバクバクしていた
彼女はゆっくりと
腰を落とした



本来ならコウジしか
入ることのできない
彼女の禁断の
洞窟の中に侵入した

中は狭くて
暖かく湿っている
僕の一物をやさしく
締め付けてくる



ベッドはギンギンと
音を立てた
普段の彼女からは
想像できない
いやらしい腰の動きに
些か驚く

いつも「ウジ」とこんな
風にHしているのかとか
さっきのパンティは生地が
薄い気がした
あどけない顔をしているが
人妻だからやっぱり

Hなパンツを
履いているのかとか
下卑たことを
考える







?

気持ち良すぎて
頭の中が真っ白になり
僕は無意識に
自分の指を舐め……



ユリのお尻の穴に
指を入れていた
「あうっ」と
驚いた声が聞こえた



ビクニー！

アッ！！



グググ
リリ
♡♡



しかし彼女の声は
僕には届いていなかった
グリグリと彼女の
後ろの穴を
責めたてながら果てた

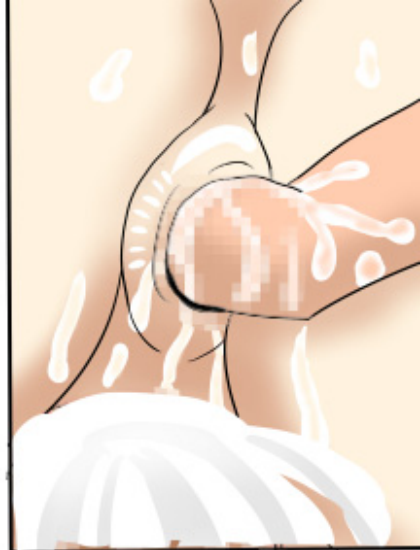
ちよつちよつと！
アツシ君
どこに指入れて
ああ！抜いて！



ひどいよアツシ君
いきなりお尻に
指を入れるなんて
…変態

ハッ！と我に返る
つい、いつもの
風俗のくせで
彼女の肛門にまで
手が勝手に動いて
しまった

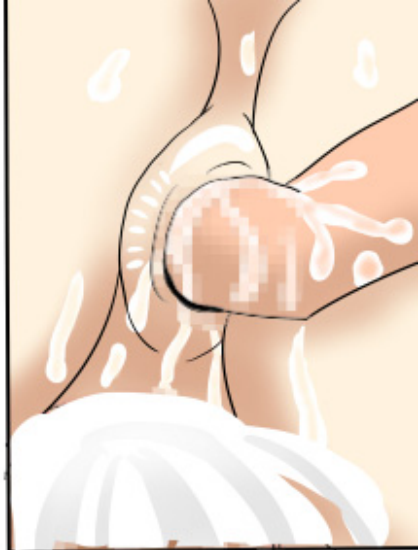
ゴッゴメン、
つい



そうゆうのが
好きなの？

僕は肩を落とした

面目ない……

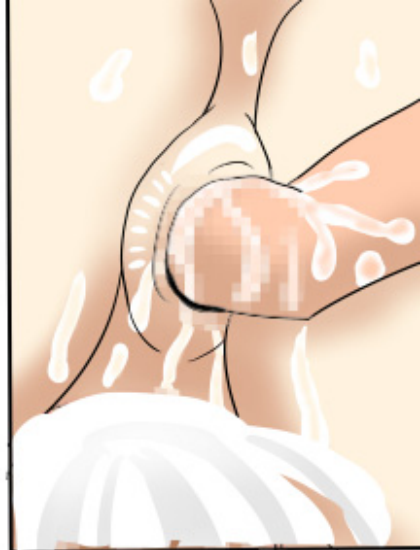


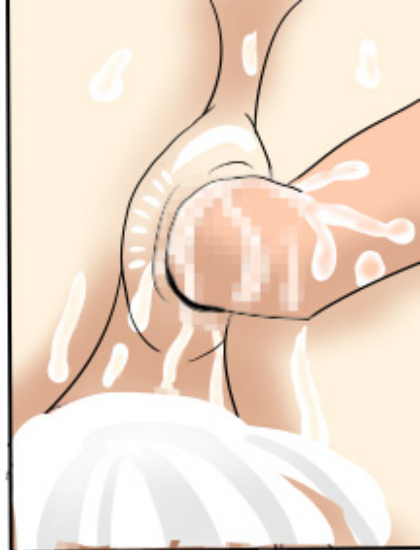


彼女は僕に
デコピンをした

これで
許してあげる

ユリはニコッと
笑ってくれたような
気がしたが
見えないが





僕は慌てて
彼女のお尻の穴から
指を抜いた
抜いた時にユリの
悶え感じた声が
聞こえて
股間がムクムクと
また大きくなった

…で、いつまで
指入れてるのかな？
アツシ君？
抜きなさい！

はっはい！
ただ今、抜きます！

